

# 三浦文彰 インタビュー

F u m i a k i M i u r a I n t e r v i e w

## ◆今年の音楽祭のプログラムについて

豪華なメンバーで室内楽が盛りだくさんです。世界一流の人たちによる親密な室内楽の魅力にあふれたプログラムですね。

僕が出演するのは、辻井伸行さんとのデュオ・リサイタルと、室内楽の演奏会。そして世界の巨匠ピンカス・ズーカーマンさんとの共演。僕が個人的に楽しみにしているのがモーツァルトの「ヴァイオリンとヴァイオラのための協奏交響曲」。僕がヴァイオリンで、ズーカーマンさんがヴァイオラを弾くので、とても特別な気持ちでいます。というのも、この曲を宮崎で演奏できることが、僕にはとてもうれしいことなんです。

ズーカーマンさんと初めてお会いしたのはここ宮崎です。宮崎で初めて自分の演奏を聴いていただいて、そこからプライベートで何度か教えていただいたり、一緒に室内楽を演奏したり、彼の指揮でロンドンやカナダで演奏してきました。

彼は、宮崎国際音楽祭にアイザック・スターンさんに連れてこられた、いわゆる現代の巨匠。今回宮崎で演奏する協奏交響曲を、彼はスターンさんや、もう一人の巨匠イツァーク・パールマンさんと演奏していたり、そういう人たちとぐらいつく演奏していませんね。それを宮崎で、僕と一緒に演奏していただける。前半にモーツァルトの協奏交響曲で、後半にマーラーの交響曲第4番。音楽的にも、すごく素敵なプログラムです。言ってみれば師弟共演で、ズーカーマンさん

第20回宮崎国際音楽祭での共演



©K.Miura



も、自分の師匠であったスターンさんと最後に親密な時間を過ごせたのが、ここ宮崎だったっておっしゃってますし、宮崎って彼にとってすごく特別な場所みたいですね。ズーカーマンさんにとっても、僕にとっても特別な場所、ここ宮崎で実現する師弟共演、特別なコンサートかなと思います。

## ◆三浦さんにとっての

### 宮崎と宮崎国際音楽祭

僕はミュージック・アカデミーに第1回から参加しているんですけど、そこから音楽祭に参加させてもらうようになって、もう、毎年、毎年来るんですよ。宮崎に。たぶん東京以外で一番来てる場所です。そう考えたら、すごく自分の中でなじみがある場所です。タクシーに乗ったら音楽祭の話になりまじ笑。

音楽家の人たちも毎回楽しみに来ていて、環境もすばらしいです。3つのホールで、いろんなこと、いろんな演奏会ができる。食べ物もおいしい笑。お客様も皆さん楽しみにしてくれていて、とてもあたたかい人たちが多くいて、感じていきます。

本当にこの音楽祭というのが、僕にとっては毎年帰ってくる場所というか、また集まる場所。だから、とても毎回楽しみにしていて、今後もさらに、どんどん盛り上がっていったらいいなと思います。

## ピンカス・ズーカーマン Pinchas Zukerman

50年の長きにわたるソリスト、指揮者、室内楽奏者として世界の音楽界で不動の地位を築いている。また献身的ともいえる教育活動は高い評価を得ており、そのカリスマ性で数々の若手音楽家に靈感を与え続けてきた。2018-19シーズンはロイヤル・フィル首席客演指揮者として10シーズン目、アデレード響のアーティスト・イン・アソシエーションとして4シーズン目を迎える。ロイヤル・フィルとはイギリス、アイルランドおよび韓国ツアーを、またロッテルダム・フィルとはソリストとしてヨーロッパツアーを行う。今シーズンはズーカーマンの70歳を記念するだけでなく、マンハッタン音楽学校の教育プログラム、ピンカス・ズーカーマン・パフォーマンス・プログラムの25周年にもあたる。テルアビブ生まれ。ジュリアード音楽院でイヴァン・ガロミアンに師事。芸術メダル、アイザック・スターン賞を受賞。これまでに100以上の録音をリリースし、2016年にはドイツ・グラモフォンとフィリップスによる録音全集がリリースされた。

## 三浦文彰 Fumiaki Miura

2009年世界最難関とも言われるハノーファー国際コンクールにおいて、史上最年少の16歳で優勝。3歳よりヴァイオリンを始め、6歳から徳永二男氏に師事。ロサンゼルス・フィル、ロイヤル・フィル、マリンスキー劇場管、チャイコフスキーシンフォニーオーケストラなどと共演。共演した指揮者には、ゲルギエフ、ドゥダメル、フェドセーエフ、ズーカーマンなどが挙げられる。また、サンクトペテルブルクの白夜祭、宮崎国際音楽祭などにも招かれる。18年10月からスタートしたサントリーホールARKクラシックスではアーティストック・リーダーに就任。今後は、ズーカーマン指揮バルセロナ響、ティチャーティ指揮ベルリン・ドイツ響、ロウヴァリ指揮エーテポリ響、エストラーダ指揮フランクフルト放送響、ボーガ指揮ケルン放送響、ダウスゴー指揮BBCスコティッシュ響などとの共演が予定されている。さらにピリスとのデュオ、ズーカーマンとの室内楽、スペインや日本でのリサイタルツアーも予定。CD録音は、エイベックス・クラシックスよりリリース。使用しているヴァイオリンは、宗次コレクションより貸与されたストラディヴァリウス1704年製作"Viotti"。